

CLIDAS を用いた、慢性冠動脈疾患患者における脳卒中と心血管疾患との関係性の検討
研究分担者 自治医科大学 データサイエンスセンター 兼 循環器内科 教授 興梠 貴英

研究要旨

日本人虚血性心疾患データベース CLIDAS を用いて、慢性冠動脈疾患に対して治療を行った患者を対象として、脳卒中の既往の有無で、脳心血管イベントに違いがあるかを調べた。本研究で脳卒中の既往と心血管イベントとの関連性が示され、両疾患を共に循環器病としてリスク管理することの重要性が示された。

A. 研究目的

日本人虚血性心疾患データベース (CLIDAS) を用いて、慢性冠動脈疾患 (CCS) に対して経皮的冠動脈インターベンション (PCI) を行った患者を対象として、脳卒中の既往の有無で、脳心血管イベント (MACCE) に違いがあるかを調べることを目的とした。

B. 研究方法

2013年4月から2019年3月までの間に、CCSに対してPCIを行った患者を対象として、脳卒中の既往の有無で、主要評価項目としてMACCE (心血管死、心筋梗塞、脳卒中)、副次評価項目としてMACCEの各因子、心不全入院、全死亡に違いがあるかを検討した。

(倫理面への配慮)

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に準拠し、自治医科大学医学部の倫理審査委員会の承認の元に行われた。本研究に用いたデータは、部門システムから抽出された既存情報であり、匿名化を行って使用した。施設のホームページに本研究に関する情報提供を行い、オプトアウトの機会を設けた

C. 研究結果

脳卒中に関する情報のある連続 5,520 例の患者 (男性 78.3%、平均年齢 70.3±10.3 歳) を対象とし、脳卒中の既往がある群 (631 人) と既往のない群 (4,889 人) に分類した。背景因子としては脳卒中の既往のある群では、高血圧、糖尿病、慢性腎臓病、心房細動、末梢血管疾患の合併率が有意に高く、心不全入院歴や心血管疾患の家族歴も多い傾向が認められた。脳卒中の既往の有無でのイベント発症率を比較したところ、脳卒中の既往のある患者は、2年+全MACCE、心血管死亡、脳卒中再発、脳内出血、心不全入院が有意に多かった。MACCEのリスク因子としては脳卒中の既往 (ハザード比 1.502、95%信頼区間:1.022-2.207、P=0.038) に加え、加齢、Body mass index

低値 (やせ)、糖尿病、慢性腎臓病が有意な因子として認められた。心房細動を加えた追加解析で、心房細動も MACCE にも影響を及ぼしている傾向が認められた (ハザード比 1.635、95%信頼区間:0.986-2.712、P=0.057)。副次評価項目としては、脳卒中の既往がある群では、脳卒中(再発)が多かった (ハザード比 2.258、95%信頼区間:1.390-3.669、P=0.001)、脳卒中発症 (再発含む)のリスク因子としては、前述の脳卒中の既往に加え、加齢、慢性腎臓病が有意に、Body mass index 低値(やせ)、高血圧も傾向が認められた。

D. 考察

CCS に対して PCI を行った患者において、脳卒中の既往が、将来の脳卒中発症 (再発) だけでなく、心血管疾患発症の予測因子にもなりうること考えられた。

E. 結論

本研究で、脳卒中の既往と心血管イベントとの関連性が示され、脳卒中と心血管疾患を共に循環器病としてリスク管理することの重要性が示された。

G. 研究発表

1. 学会発表

Masanari Kuwabara, et al. Analysis of the Relationship between Stroke and Cardiovascular Disease Using the Clinical Deep Data Accumulation System (CLIDAS) Database. 2024年3月10日、日本循環器学会学術集会 (神戸) (Late-breaking cohort session)

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 特記事項なし